

1 調査日 平成26年10月16日(木)～10月17日(金)

## 2 調査の概要

10月16日(木)

### (1) 福岡県立スポーツ科学情報センター(福岡県福岡市)

タレント発掘事業は、小学4年生から中学1年生を対象として約20種類の運動能力テストを行って県全域から成績上位の子どもを選抜し、小学5年から中学3年までの間に個人種目からチーム種目まで最大で28の競技を体験させて適正を見極め、能力開発・育成プログラムに参加させてアスリートを育成する事業である。

福岡県ではこのタレント発掘事業の取り組みを全国で初めて実施し、すでに10年の実績がある。運動能力テスト参加者は事業開始年度である平成16年度の1,522人から平成25年度の47,505人にまで増加している。また、平成20年度から開始された日本オリンピック委員会エリートアカデミーのフェンシングで9人、ライフル射撃1人が本事業の出身者であり、他にも国民体育大会や全国大会で活躍する選手を輩出している。

本県においても平成36年の国民体育大会に向けて本年度から次世代アスリート発掘育成事業に取り組んでおり、福岡県の取り組みを参考とするため調査を行った。



10月17日(金)

### (2) 長崎県立総合運動公園陸上競技場(長崎県諫早市)

平成36年に本県で開催される国民体育大会の主会場については、彦根総合運動場に決定されたところであり、今後施設整備が進められる。

については、主会場の施設整備にあたっての参考とするため長崎県立総合運動公園陸上競技場についての調査を行った。



(3) 大村高校山岳競技会場および大村公園山岳競技特設会場（長崎県大村市）

本県での国民体育大会の運営の参考とするため、特設会場の整備が必要となる競技の1つである山岳競技を視察し、会場の整備状況、来場者への対応、競技運営の状況等、長崎がんばらんば国体の運営状況について調査を行った。

